



平成30年6月 マンスリー レポート

集計企業数 55 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	56,316,421 万円	100.0%	101.4% (99.4%)	54,933,098 万円	100.3% (98.5%)
食 料 品	48,051,278 万円	85.3% (85.4%)	101.8% (100.0%)	46,805,862 万円	100.5% (98.8%)
農 産	7,123,522 万円	12.6% (12.7%)	100.4% (99.0%)	6,942,257 万円	99.2% (97.7%)
水 産	4,273,413 万円	7.6% (7.8%)	101.5% (100.0%)	4,167,414 万円	100.2% (98.7%)
畜 産	6,001,416 万円	10.7% (10.9%)	101.9% (101.8%)	5,816,204 万円	100.4% (100.3%)
惣 菜	5,481,668 万円	9.7% (9.9%)	102.7% (101.1%)	5,322,213 万円	100.9% (99.4%)
日配食品	10,934,494 万円	19.4% (19.5%)	101.0% (99.7%)	10,663,430 万円	99.8% (98.5%)
加工食品	14,236,765 万円	25.3% (24.6%)	102.7% (99.8%)	13,894,345 万円	101.5% (98.7%)
生活関連	3,496,238 万円	6.2% (6.0%)	100.4% (99.3%)	3,431,866 万円	99.7% (98.7%)
衣 料 品	1,739,572 万円	3.1% (3.0%)	98.1% (93.0%)	1,726,826 万円	98.5% (93.3%)
そ の 他	3,029,333 万円	5.4% (5.6%)	98.8% (94.3%)	2,968,544 万円	99.0% (96.1%)

② 数 値

全店総売上高	56,316,421 万円	店 舗 数	4,726 店舗
総売場面積	9,569,459.2 m ²	総従業員数	251,336 人

店舗平均月商	11,916.3 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,859.3 円 (100.9%)
月間m ² 売上(前月)	5.9 万円 (6.1 万円)	平均店舗面積	2,024.9 m ²
月間坪売上(前月)	19.5 万円 (20.0 万円)	パート比率(前月)	77.2% (77.1%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 6月の天候について、平均気温は上旬から中旬は前年を下回る地域があったものの、月の平均気温は全国的に高かった。降水量は北海道地方ではかなり多かった。日照時間は東日本の太平洋側ではかなり多く、東日本と西日本の日本海側で多かった
- ・ 関東甲信地方では、平年より22日早い6月29日ごろに梅雨明けとなった（6月は観測史上初）
- ・ 生鮮品の相場状況は、野菜は「にんじん」「じゃがいも」「たまねぎ」を中心に月間を通して安値、果実では国産の「りんご」と輸入の「チェリー」が高値であった一方、国産の「さくらんぼ」や「うめ」は安値であった。水産物は市場への総入荷量が少なく、「いわし」や「するめいか」などの大衆魚が高値であった。畜産物では国産の豚肉が高値であった一方、国産の鶏肉は「もも肉」「むね肉」ともに安値であった
- ・ 前年と比べ、土曜日が1回多く木曜日が1回少ない曜日廻りで、売上にプラスの影響を与えた

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 気温の上昇に伴い、「きゅうり」や「ブロッコリー」などのサラダ野菜が好調であった一方、「トマト」や「ミニトマト」は、単価の下落を販売点数の増加で補いきれず、売上は不調であった
- ・ 旬の食材において、野菜では「アスパラガス」や「おくら」が好調、果実では「さくらんぼ」や「もも」、「メロン」や「すいか」が概ね好調であった
- ・ 今年は「梅」が豊作となり好調であった
- ・ 輸入果実では「バナナ」と「キウイ」が概ね好調、「チェリー」は好不調が分かれた

○ 水産

- ・ 水産全体の売上では6か月ぶりに既存店ベースで前年同月比を上回った
- ・ 前年アニサキス報道の影響により売上を落とした「刺身」が、本年は裏年に当たり好調であった
- ・ 「もずく」や「めかぶ」を中心とした「海藻類」が好調であった
- ・ 「うなぎ」が稚魚不漁による価格の高騰により不調であった
- ・ 「生かつお」がアニサキスの影響による販売方法の見直しにより不調であった

○ 畜産

- ・ 牛肉は「ステーキ」用途、豚肉は「冷しゃぶ」用途が好調であった
- ・ 国産の鶏肉が、相場安による販促回数が増えたことにより、概ね好調であった
- ・ 加工肉が不調であった

○ 惣菜

- ・ 前年アニサキス報道の影響により売上を落とした「寿司」が、本年は裏年に当たり好調であった
- ・ 「米飯類」や「中華惣菜」は概ね好調、「天ぷら」や「涼味麺」は好不調が分かれた

○ 日配・加工食品

- ・ 「納豆」や「梅干し」、「酢」や「飲用酢」がテレビ番組の放映効果と健康ブームにより好調であった
- ・ 気温環境に関わらず「アイス」は概ね好調であった一方、「飲料」や「ビール」は好不調が分かれた。また「チルド麺」や「乾麺」「めんつゆ」などの涼味麺関連品も好不調が分かれた
- ・ 梅の販売が好調だったため、「氷砂糖」や「ホワイトリカー」などの果実酒関連が好調であった
- ・ 前年「ポテトチップス」や「カール」が品薄により売上を落とした「スナック菓子」が、本年は裏年に当たり好調であった

○ 「父の日」の取り組みと動向について

- ・ 「父の日」のメニュー提案は「ステーキ」と「握り寿司」を中心とした取り組みが多く、動向としては概ね好調であった。次いで「ローストビーフ」や「お酒」「おつまみ」が多く、「ごちそう弁当」や「プレミアム清酒」「高単価スイーツ」といった、こだわり・高品質を打ち出した商品も見られた

以 上